

第85回テーマ： 六甲山と周辺のイノシシ



六甲山で獲れた大イノシシ

講演内容

- 兵庫県の野生動物の生息状況と生息環境について
- 六甲山周辺のイノシシやその他の野生動物について
- 野生動物との付き合い方について

実施日：平成22年4月17日（土）
午後1時～3時45分
場 所：六甲山自然保護センター



講師：^{かがわ ゆういち}香川 裕一さん
プロフィール

1956(昭和31)年生まれ、53歳。神戸市出身。昭和57年岩手大学大学院獣医学修了、獣医師。同年4月より兵庫県職員、家畜の衛生対策指導、試験研究に従事。平成19年森林動物研究センター勤務、平成22年4月より北播磨県民局加東農林振興事務所勤務。

二つ池にカモが2羽飛来

午前10時の六甲山上は10℃で肌寒く、10名で環境整備の定例活動を行いました。散策路には山野草が花をつけていました。二つ池に2羽のカモが飛来して泳いでいました。初めての様子を目にして驚きました。



二つ池で悠然と泳ぐカモ

野生動物の保護と管理に取り組む香川さん

講師の香川さんは3年前に設立された兵庫県森林動物研究センターの専門員として従事されていましたが、この4月1日付けで北播磨県民局の行政職として異動になりました。森林動物研究センターでは農業や林業の盛んな地域で、野生動物の被害への対策と保護について、最前線で活躍されていました。灘区で生まれて六甲山にも足繁く通われ、今回の講演を懐かしく感じておられました。野生動物と直接の関わりが少ない都会の人たちに、農山村部で切実になっている野生動物とのあつれきを伝えようとしていました。

兵庫県の野生動物と被害の状況を知った

まず兵庫県における野生動物の現況を紹介されました。自然環境が豊かで哺乳類は約40種類、鳥類で約330種類が生息し、野生動物が増え農林業の被害は大きくなっている。イノシシ、シカ、ツキノワグマ、サル、それに外来種のアライグマ、ヌートリアの生息状況と被害状況をお話しされた。シカの被害が大きいことや、アライグマの被害が日本一であることなども説明されま



森林動物研究センター

した。野生動物の特有の行動特徴についてのお話しは、意外性もあって参加者の関心を高めました。

続いて、野生動物の被害が増加している原因として「里山の管理がされていない」ことを指摘されました。野生動物の保護管理や被害対策は、野生動物と人の生活とのバランスを取り戻すことであるとのこと。野生動物の現状は、人が生活する自然環境の健全さを示す指標であることが、次第に伝わっていきました。野生動物の駆除を残酷だと感じがちな都会の人たちに、野生動物と一線を引いた付き合い方の大切さを強調されました。

野生動物との付き合い方も改めて考えたい

六甲山のイノシシの現状はどうか、丹波で話題になっている鹿肉の販売はどうかなど、やや興味本位の関心もありました。ご苦労を聞いて、野生動物と人間が棲み分けて共存できる自然環境が崩れている状況を直視することに迫られました。「野生動物には餌を与えるな！」は必守すべき警鐘です。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 榎本 聡子さん

イノシシは自宅周辺でも見かけることがあります。野生でありながら身近にいる、でも人慣れしないイノシシについて、どんなお話が聞けるのか楽しみにしながら参加しました。他の動物についての話も、参加者の方からの質問も含めて、興味深く、又、楽しく聞かせていただきました。肩ひじ張らないなごやかな雰囲気も良かったです。



終わってから、二つ池に行ってみました。カモはもういるはずないとは思いましたが、山の中の、あんな小さな池にカモが来るなんて、驚きです。

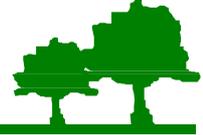
【助成金をいただいている機関】

セブンイレブン記念財団、大阪コミュニティファンド（東洋ゴムグループ環境保護基金）、子どもゆめ基金、コベルコ自然環境保全基金、コープこうべ環境保護基金

主催：六甲山を活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会



第85回テーマ：六甲山と周辺のイノシシ



第85回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:15
2. 講演：13:15~14:30
3. 休憩：14:35~14:50
4. 質疑応答：14:50~15:35

講演

- 兵庫県の野生動物の生息状況と生息環境
- 六甲山周辺のイノシシやその他の野生動物
- 野生動物との付き合い方について



まだ寒く、ストーブのお世話に

講演の挨拶（香川 裕一さん）

加東農林振興事務所で農業や地域振興の仕事をしています。3月までは森林動物研究センターで野生動物の保護や対策の仕事をしていました。



香川さん

講演内容

1. 兵庫県の野生動物の生息状況と生息環境

■野生動物の農林業への被害が問題になっている

兵庫県は自然環境が豊かで、哺乳類で約40種類、鳥類で約330種類以上が生息している。近年野生動物が増えてきており、農林業への被害が顕在化している。精神的な被害や生活被害も大きくなっている。外来生物が生態系に及ぼす被害も問題になっている。

■野生動物の被害は年間6億円

平成19年、約6億円ほどの農作物被害があった。被害額はイノシシ、シカ、アライグマ、ヌートリアの順に多い。林業被害を加えると、シカの被害が最も大きくなる。

兵庫県は日本で一番アライグマの被害がひどい。シカは北海道、長野に次ぐ3番目、イノシシは8番目になっている。

■ニホンジカ

ニホンジカは、植物であれば何でも食べる。特に新芽が好き。1歳で大人になり、毎年5~6月に1頭出産する。妊娠率が高く天敵もないのでどんどん増える。イネの被害が最も多い。森の下草がシカに食い荒らされてなくなり、里山の植生を衰退させる被害もある。



シカの被害を受けた林

■イノシシ

イノシシは全県的にはシカに押されて減っている。シカに下草を食べられると、藪を好むイノシシは住みにくくなる。シカが少ない地域では被害が増えている。イノシシは本来は警戒心が強く、人に姿を見せることは少ない。雑食性で年に1回繁殖して4~5頭の子供を産む。イノシシも田ん

ぼの被害が最も大きい。力が強く、金網の柵をしても掘り返して穴をあけてしまう。

■ツキノワグマ

この辺りでは馴染みがないが、但馬の方では頭数が増えている。夏になるとオスは繁殖のため、メスを求めて広範囲を動き回る。クマも雑食性の動物でドングリやクリが大好き。

県では捕獲してお仕置きして山に帰すということをやっている。ドングリ類が凶作の年は人家に近づいてくる。

■サル

サルも雑食性。植物が中心だが、昆虫も食べる。兵庫県では20~120頭ぐらいの群れがいる。年に1回、2~3頭を産む。兵庫県は近畿の他の府県に比べるとサルは少ない。サルは食い散らかすので農家に嫌がられる。

■アライグマ

都市部でも大きな問題になっている。県では神戸市北区の被害が最も大きい。手が器用で、イチゴやブドウなどの高価な作物が好き。人家の屋根裏に棲むことも多い。性格は獰猛で犬でもかなわない。80年代、アニメが流行った頃に輸入されはじめたが、飼い慣らせる動物ではない。



アライグマ

■農村の衰退が野生動物を増やした

昔は農村地帯でも住民が多く、活力があった。現在は耕作放棄地が増え、農村部での人間の活動も低下している。狩猟をすることも減った。その結果、野生動物の生息地が拡大し、個体数も増えてきた。人里へもどんどん出るようになってきている。兵庫県では増えている動物は減らし、減っている動物は増やしてバランスを取り戻そうとしている。

■昔からあった野生動物との戦い

大昔からイノシシなどとの戦いがあった。西脇市に行くと、どこにでもと言っていいほど猪垣(しがき)が残っている。2mの高さに石を積んで、山際



猪垣

を囲っている。

江戸時代には藩を上げて1万人動員して野生動物を崖から突き落としたという記録がある。明治時代には乱獲が進んで、私の子供の頃には野生動物はほとんどいなくなった。

■絶滅が危惧されていた頃、実は増えていた

絶滅が危惧されていた昭和60年頃、実は動物が増え始めていた。1950年頃と比べると、住宅地が増えている一方で森林が増えている。荒地が森に戻り、野生動物の生息地自体は回復しているという状況がある。

2. 六甲山周辺のイノシシやその他の野生動物

■イノシシは非常に危険な動物

イノシシは力が強くて7～80kgでも鼻で持ち上げてしまう。オスには牙があり、口を開け閉めするごとに研ぎ澄まされるので非常に鋭い。クマの方が怖いと思われているが、死に至るようなケガはイノシシの方が多い。



イノシシの鋭い牙

■野生動物は人間を恐れている

野生動物が最初遠慮深く見えるのは、人間を恐れているだけで、遠慮している訳ではない。餌をやるとだんだん安心してきて、そのうち要求してくるようになり、人をおどかすようになる。一線を引かなくてはいけない。なるべく人から遠ざけた方が良い。

■山の中では立ち向かってくるサルがいる

サルも野生の寒いところにいるとかわいそうに見えるが、家の中に入ると憎たらしい。

サルは平地ではが、山の中では自分たちが強いと思っているので向かってくることがある。最近イヌを使って追い払うことがあるが、イヌも木には登れない。

3. 野生動物との付き合い方について

■いろんな動物がいてこそバランスが保たれる

自然環境が豊かなことが人にとっても良いということは皆さんが同意されると思う。自然環境は、いろんな動物がいてこそバランスが保たれる。

農林被害があるので全てとってしまえという意見もある。人の都合だけでも動物の種を減らすのは許されることではない。動物と仲良くしようとするれば良いというわけでもない。

■野生動物に厳しく接することも必要

海外には人が立ち入れない自然公園があるが、日本では難しい。人が生活するなかに自然が溶け込んでおり、ときには野生動物に厳しく接することも必要ではないかと思う。

質疑応答

イノシシよりシカの方が強い？：地元の人では「シカが出てくると、イノシシは神経質なんでよー出てこん」とのこと。

シカ肉はブタやウシと同じように処理される？：一般の食肉検査所には野生動物は入らない。専門の処理施設をつくって、ガイドラインをつくって流通に乗せようということは進められている。

まとめ(香川さん)

都市部の方にも、農村部での対策に理解をしていただきたいと思います。農村部で被害を受けている方は、野生動物を殺すのがかわいそうだとばかり言えない状況です。

都市部でも餌付けの問題など、小学生ぐらいから考えていくような機会を持っていただければと思います。

事務局より

イノシシのオスはツキノワグマよりどう猛だとのこと。六甲山の麓では、大イノシシを「可愛い」という現代ギャルもいました。野生の営みを厳しく見つめる目を養う必要を感じます。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「六甲山と周辺のイノシシ」
- ・レジメ：「六甲山と周辺のイノシシ」
- ・案内パンフ：兵庫県森林動物研究センター
- ・兵庫の野生鳥獣害対策シリーズ2009
①ニホンジカ、②イノシシ、③ニホンザル、④ツキノワグマ、⑤アライグマ

香川 裕一：かがわ ゆういち
兵庫県北播磨県民局 加東農林振興事務所
農政振興課長
〒673-1431 兵庫県加東市社字西柿 1075-2
電話：0795-42-9422 FAX：0795-42-7232
e-mail：Yuuichi_kagawa@pref.hyogo.lg.jp

◆参加者の声

- ・野生生物の生態と被害の状況のデータも豊富だった。
- ・イノシシやシカの被害の話が参考になった。
- ・イノシシの怖さ、鋭いキバのことを知った。
- ・兵庫県の野生動物を知った。六甲山のイノシシについてもっと深く知りたかった。

◆参加者：31名(50音順・敬称略)

浅井 審一	大垣 廣司	尾崎 尚子	高尾 忠男	渡海宗一郎	林 和俊	古本美千子	明角 正男	浅井 康枝	岡 敏明	香川 裕一	田邊 征三	堂馬 英二	林 慶一郎	増井 啓治	森 康博	泉 美代子	岡谷 恒雄	兼貞 力	佃 敬之佑	堂馬 佑太	福島 康弘	増田 知子	吉村 成幸	榎本 聡子	奥西 良英	柴田 正生	寺垣 耕平	西井 豊	福永 一登	松井 光利
-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------